

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2017 年

No. 77

2017年8月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦
© JASE. 2017 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第23回WAS国際会議報告 1
多様な性のゆくえ⑤ 7
性教育の現場を訪ねて⑤ 8

Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック⑰ 10
今月のブックガイド 11
JASEインフォメーション 12

●第23 回WAS (World Association for Sexual Health)国際会議報告

性の健康への権利について (RIGHTS TO SEXUAL HEALTH FOR ALL) 学ぶ、語る、国際会議

WAS 諮問委員会／科学委員会／性の権利委員会
大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授

東 優子

はじめに

性科学(セクソロジー)に関する最大の国際学会であり、アジア・オセアニア性科連合(AOFS)・アフリカ(AFSHR)・ヨーロッパ(EFS)・南米(FLASSES)・北米(NAFSO)など、世界5大陸に下部組織を有するWAS(World Association for Sexual Health)は、1978年ローマ大会を初回として、学術集会・国際会議を隔年開催している。

日本性教育協会(2012年4月1日に日本児童教育振興財団と合併)、日本性科学会、日本思春期学会などが団体登録しているほか、諸外国ではとくに臨床家・研究者などの個人会員も多い。その第23回目となる国際会議が、2017年5月28日～31日、プラハ

(チェコ共和国)において開催された。

「魔法の都」に参集した650名(70か国)

開催地となったプラハは、世界遺産にも登録され、「ヨーロッパで一番美しい都」とも称される人気の観光地である。かつての王様が錬金術や占星術に傾倒していたことから「魔法の都」とも呼ばれ、偉大な作曲家スメタナを輩出し、多くの美しい劇場を配した「音楽の都」でもある。ちょうど「第72回プラハの春国際音楽祭」の開催時期と重なっていたこともあり、多くの観光客で賑わっていた。

大会長のPetr Weiss教授が教鞭をとるカレル大学は、世界で最も古い性機能学研究所が設立された大学としても知られる。「プラハは、世界初の脳脊髄液滴

法を考案した Kurt Freund 教授や、勃起機能不全の男性患者に初の血管顕微手術を行った Václav Michal 教授を輩出するなど、性科学の歴史において重要な役割を果たしてきた」(会長挨拶)という。

会場となったのは、観光中心地へのアクセスも便利なクラリオン・コンGRESS・ホテルで、登録者数は 650 名 (70 か国) であった。欧州諸国からの参加がその半数以上を占め、国別でみるトップ 10 は、米国 (62 名)、ブラジル (45 名)、英国 (43 名)、日本 (30 名)、オーストラリア (30 名)、イタリア (28 名)、スウェーデン (26 名)、スペイン (25 名)、フィンランド (24 名)、チェコ (23 名) であった。

参加登録料には、学生割引のほかに、「看護師・レジデント・セラピスト・教員・NGO 職員」に対する特別枠が設けられてきたことから、これらの肩書をもつ参加者が全体の約 40% と最も多く、男女比は 6:4 で女性が多かった。

多彩なプログラム

プラハ大会の概要は、表に示すとおりである。開会式直後の会長講演では、今回で任期満了となる Kevan Wylie 会長 (英国) が「関係性・加齢・平等」と題した講演を行い、有終の美を飾った。これに続いて、性科学の偉人ジョン・マナーの名を冠した記念講演では、カナダ・コンコルディア大学の James Pfaus 教授 (心理学) が「性的欲求、喜び、阻害に関する脳機能」に関する最新知見を紹介した。

プラハ大会の概要

参加登録者数	650
参加国	70
アブストラクト応募総数	503
シンポジウム	26
ワークショップ	6
招待・基調講演	35
会長講演	1
ジョン・マナー記念講演	1
ゴールドメダル (金賞) 講演	5
WPATH 特別講演会	1

※ WPATH = World Professional Association for Transgender Health



夕暮れ時、プラハ城へと続くカレル橋

毎回の大会を特徴づける「招待・基調講演」については、私も委員のひとりである WAS 科学委員会が、地域・ジェンダー・専門領域のバランスを勘案しつつ、多数の候補者から厳選した演者を単独講演とテーマ別のプレナリー・セッションに振り分け、学際色豊かなプログラムを組んだ。登壇者と演題は、以下の通りである。

【招待講演】

- Aken'Ova, D. (ナイジェリア) 女性、若者、LGBTQI に関する政策、そしてアドボカシー
- Carter, S. (米国) 愛のヒーリング・パワー：オキシトシンに関する仮説
- Dettmeijer-Vermeulen, C. (オランダ) 子どもに対する性暴力への取り組み
- Doherty, M. (カナダ) 中国・ハルビン医科大学における性の健康専門職の養成から得られた教訓
- Fedoroff, P. (カナダ) パラフィリアとパラダイム
- Green, R. (英国) セックスの変遷：1930 年代の欧州、1950 年代の米国
- Hakim, C. (英国) 21 世紀におけるセクシュアル市場とエロティック資本：インターネットのインパクトについて
- Mitchell, K. (英国) 若者の性機能とウェルビーイング
- Terrein-Roccatti, N. (メキシコ) セクシュアリティの構成要素としての情緒的・心理学的表現
- Toates, F. (英国) セックスに関するインセンティブ・モチベーションと階層モデル
- Sara Nasserzadeh (イラン／米国) 世界の性器：文化的規範 vs. 世俗的流行



開会式の様子



座長を務める大川玲子氏（日本性科学会会長）

【プレナリー・セッション】

1 心理学的介入の新しい潮流

- 1-1 Bischof, K. (スイス) Sexocorporel: セックス・セラピーに重要な身体について
- 1-2 Nobre, P. (ポルトガル) 性機能障害に対する新しい治療的アプローチ: 性的関心や肯定的感情をどう高めるか
- 1-3 Coleman, E. (米国) 衝動的／強迫的性行動: 性に肯定的かつ統合的な治療モデルについて

2 性科学の過去・現在・未来

- 2-1 Giami, A. (フランス) セクシュアリティの科学
- 2-2 Rubio-Aurioles, E. (メキシコ) 性科学者の立ち位置: 横断的モデルの必要性
- 2-3 Corona-Vargas, E. (メキシコ) WAS における女性: ジェンダーの平等・公平に向けた闘いの歴史

3 性医学

- 3-1 Bitzer, J. (スイス) 性医学: 身体医学と心理療法
- 3-2 Vignozzi, L. (イタリア) メタボリック・シンドロームと BPH: 炎症と性ステロイド・バランスの興味深い役割

4 トランスジェンダーとノン・バイナリーな焦点

- 4-1 Winter, S. (豪) WHO がスポットライトを浴びているのか? ICD-11 におけるセクシュアリティと疾患／障害概念を問う
- 4-2 Adrián, T. (ベネズエラ) 「倒錯したジェンダー・イデオロギー」を成敗する十字軍: トランス、インターセックス、両性具有、あるいは

は流動的なジェンダーを生きる人々を攻撃する原理主義者による新しいキャンペーンの展開

- 4-3 Higashi, Y. (日本) SOGIE と人権をめぐる日本の当事者運動と健康アプローチの影響

5 性（セクシュアリティ）教育

- 5-1 Yankah, E. (ドイツ／ガーナ) 包括的性教育: その起源とエビデンス、そして未来
- 5-2 Paalanen, T. (フィンランド) コミックを使った性教育: 重い課題を扱う軽い媒体について

6 関係性とセクシュアリティ

- 6-1 Janssen, E. (ベルギー／米国) 境界線のない海のごとく: セックスと関係性に関する研究の新しい方向性
- 6-2 O'Sullivan, L. (カナダ) ロマンс・歓喜・亀裂・繰り返し: 若者の親密な関係性における試練と苦難

7 性の権利

- 7-1 Hernandez-Serrano, R. (ベネズエラ) 人間の性の権利: 20 年の概観 (1997-2017)
- 7-2 Perelman, L. (メキシコ) ホモフォビアやトランスフォビアに打ち勝つための、家族の受容と支援
- 7-3 Castellanos-Usigli, A. (メキシコ／米国) & A.Braeken, D. (オランダ) Fulfill 若者の性の権利を実践にどう組み込んでいくか

8 女性とセックス

- 8-1 Kontula, O. (フィンランド) 女性のオーガズムを規定する要因
- 8-2 Brender, J. (ブラジル) 異性愛女性における性的興奮の誘因をマッピングする

8-3 Adaikan, G. (シンガポール) 女性のマスターベーション：頻度・特徴・治療上の意義

8-4 Rudolph, E. (南アフリカ) 女性の性交痛障害

9 ポルノグラフィ

9-1 Attwood, F (英国) 若者とポルノグラフィ

9-2 Štulhofer, A. (クロアチア) 思春期の若者の性的デビューとコンドーム使用に与えるポルノグラフィの影響（縦断的研究）

シンポジウムは、様々な学会や WAS の各種委員会によって企画されていたことから、性科学に関して世界にどういった団体・組織が存在しているのかを垣間見ることができるという意味でも興味深かった。以下にタイトルと企画団体・組織の一覧をご紹介します。

【シンポジウム一覧】 ※（ ）内は、企画団体名

- ① 性的興奮と欲望が消え失せるとき (IASR = 性研究国際学会)
- ② 性医学における最新動向 (ISSM = 国際性医学協会)
- ③ 差別のない性の健康サービスに関するケア基準の開発 (UNAIDS = 国連エイズ合同計画)
- ④ セクシュアル・サイエンス研究の最前線と豊かな中国のセクシュアル・アート (World Chinese Society for Sexology = 世界中国性科学学会)
- ⑤ 女性の性的欲求をどう改善するか (FLASSES = ラテンアメリカ性科学連盟)
- ⑥ 性教育の現在 (WAS 性教育委員会)
- ⑦ 男性の包皮切除術：語られてこなかった影響の追究 (Sexpo Foundation = フィンランド・セクスポ財団と Genital Autonomy = 性器の自律に関する権利擁護組織による共同企画)
- ⑧ AASECT 創立 50 周年記念：性の教育とセラピーの展望 (AASECT = 全米性教育・カウンセラー・セラピスト協会)
- ⑨ セクシュアル・ケアにおいて見過ごされているニーズ (ESSM = ヨーロッパ性医学協会)
- ⑩ アフリカにおける SRHR の現況：コミットメント・政策・行動の検証 (AFSHR = アフリカ性の健康と権利協会と ACCPD = 人口と開発に関するアフリカ CSO 連合による共同企画)
- ⑪ 性機能障害の概念と治療の進展 (ABP = ブラジ



シンポジウムの様子

ル精神医科学会) ※ポルトガル語のみ

- ⑫ ポルトガルにおける現代性科学の潮流 (SPSC = ポルトガル臨床性科学協会と SPA = ポルトガル・アンドロロジー協会の共同企画)
- ⑬ 性の喜び：包括的概念から実践へ (WAS)
- ⑭ チェコにおける性科学 (WAS)
- ⑮ 性の健康と生殖の健康の間に壁が存在するのはなぜか (PAHO = 汎米保健機構と WHO の共同企画)
- ⑯ 性教育とセラピー (SSSS = 性科学研究協会)
- ⑰ 性科学の臨床に関する新しい知見 (EFS = 欧州性科学連合)
- ⑱ 若者の性の権利 (WAS と IPPF = 国際家族計画連盟の共同企画)
- ⑲ 持続可能な開発目標 (SDGs) を通じた性の健康の推進と人権 (UNESCO Chaire Sexual Health & Human Rights = 性の健康と人権に関するユネスコ・チェア、SFSC = フランス臨床性科学協会、他による共同企画)
- ⑳ 性の健康について脆弱性の高い人口集団に関するグローバルな研究 (SSSS = 性科学研究協会)
- ㉑ セクシュアリティに関するハウツー：科学的かつ介入的な横断的理論と学際的研究 (SBRASH = ブラジル人間の性協会)
- ㉒ 女性の性の健康：ブラジル産婦人科連合の見解 (SBRASH と FEBRASGO = ブラジル産婦人科連合の共同企画)
- ㉓ 南インドにおける性機能：前向きコホート研究 (IAFS = インド性科学学会)
- ㉔ 生殖の健康との連関における性の健康に関する操

作的フレームワーク（WHO）

- ㊤ 性の権利と今日的課題（WAS 性の権利委員会）
- ㊤ LGBT に関する研究の未来（FISS = イタリア科学的性科学連合）

プラハ大会では、4年に1度の役員選挙が実施され、21名の新しい役員が選出された。

続いて開催された役員会議で会長に選出されたのは、ポルトガル・ポルト大学のヒューマン・セクシュアリティ研究所（通称セックスラボ）所長、Pedro Nobre 教授である。彼は、臨床心理学が専門で、キンゼイ研究所（米国）の研究員でもある。

プレナリー・セッションでは「性機能障害」に関する講演を行ったが、それ以外にも性の健康に関する幅広い調査研究に従事しており、様々な賞も受賞している。さっそく、10月にはポルトガルで「性の健康と権利」の推進に関する戦略会議合宿することが決まるなど、会長をはじめとする新体制のメンバーは意欲的である。

参加者の感想

以下に、早乙女智子氏（京都大学大学院客員研究員・産婦人科医）と、福田和子氏（国際基督教大学在学学生）による報告を紹介する。早乙女氏は、毎年9月4日に、世界各国で展開される「世界性の健康デー」記念イベントを初回2006年から企画・運営していただくなど、WASへの貢献は計り知れない。今年も関東圏でイベントを開催していただけるそうである。

福田氏は、彗星のごとく現れた若手ホープである。現在、スウェーデンに留学中というだけあって、抜群の語学力と豊かなコミュニケーション能力を活かし、さまざまに人脈も広げられたようである。

◆オプションツアー「性教育」視察にも参加

なかでも印象的だったのは、朝の Sexocorporal（身体的性アプローチ（仮））のワークショップに参加したことだ。ワークショップは参加費がさらに別にかかるもので、少人数だからこそ、自己紹介や発言を求められるのが怖くて今までなかなか参加できなかったが、今回、気付けば勝手に意見を述べていた自分がいた。

セクシュアリティは、感情と、認知、そして感覚や



左から WAS 前会長、プラハ大会会長、WAS 新会長

生理と密接に関連しているという考え方である。筋緊張や呼吸の仕方、骨盤を動かすことなど、単に感情と思われていることも身体感覚や刺激によって変わる。部屋の中をただ歩く、という課題では、人は誰かの後をついて行ってしまったり、お互いを避けて歩いたりするものだと気づく。握りこぶしを作って歩くと何となくアグレッシブな自分に気づく。お尻を意識して歩くと、性的な意味合いが発生したり、好き嫌いが出てくる。このように、性は身体感覚と切り離せないもので学習できるという学びだった。

また、学会を離れて、街中に視察に行った。IPPF のチェコ版であるナードニー・インスティテュート（NLDV: Narodni Institute Pro Dalsi Vzdelavani）では、性教育者の教育をしている。チェコでは、国が主導するものと、学校単位のもの、そしてその他の民間のものがあり、避妊や性感染症予防教育も充実しているように思われた。引き続き、小学校の見学に行った。Zakladni Ecola・Chelockeho という小学校で、生物の授業として You Tube に上がっているカトゥーンを使っているそうだ。若い校長先生が案内してくれた。

600人以上の参加者のうち、日本は4番目、30人が参加し、オーラル7名、ポスターも7名が発表していた。個人的には、PGAD（Persistent genital Arousal Disorder: 持続性性喚起障害）の演題に興味があり、カナダのクイーンズ大学の研究者が用語の認知度の調査をしていた。疾患名の妥当性も含めて国内でも行いたいテーマである。

早乙女智子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系客員研究員・産婦人科医）

◆性をポジティブに語る学会に感激

私は今回初めて WAS に参加した。なかでも強く印象に残ったのが、性をポジティブに捉え、語ってゆくことの重要性である。

会場では、かたや性暴力、セックスがいかに人を傷つけるか、かたやオーガズム、セックスがいかに人を喜びに導きえるかという、一見正反対に見えることを、WAS という一つの場で、それぞれの研究者が互いの意見を受け入れ、尊重しながら発表していた。

それがなぜ可能かといえば、そこに集まる人の多くが、性は人を傷つけることも、幸せにすることもできる、だからこそ、科学的見地に基づいた正しい知識をもって性を語り、性で人が傷つくのではなく幸せになれる社会を目指そうという共通認識が強く存在していたからのように感じている。

私は主に教育分野のお話を伺ったのだが、皆が目標として掲げるのは、教育の中でいかにセックスのリスク面をきちんと説明しながらも性をポジティブに語るか、また、そうすることで如何にセックスに対するスティグマを軽減し、より安全で確実なヘルスケアや情報、話しやすい環境に生徒を導いていくか、というこ

とだったように思う。

日本においては、未だ日常の性を、ましてポジティブに語るなんて難しいと感じる方も多いかもしれない。しかし、性、セックスをポジティブに、オープンに語ることは、性に奔放なこととも、性暴力までをも容認することとも違う。むしろ、本来セックスはポジティブなものというマインドセットがうまれてこそ、日常の性生活においても嫌なことは嫌と認識し、傷つけ傷つけられることは回避し、社会においても性で人を傷つけることに断固として反対ができるようになるのだと思う。

かくいう私も、性をポジティブに伝えるのはもはや当然、あとはいかに実践するかという空気感には圧倒され、国際社会の風に当たる重要性を心底感じた次第である。

あの場で学べたことへの感謝と共に、また次回も参加できたらと、今から2年後を楽しみにしている。

福田和子（国際基督教大学在学生／スウェーデン留学中）

※次回の WAS 国際会議は、2019 年にメキシコシティで開催される。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>